

## 「小中交流宿泊体験学習」 ～教え学び合う人間関係づくり～

- ◆期 日 第1回：平成22年11月 9日（火）～10日（水）【1泊2日】  
第2回：平成22年11月16日（火）～17日（水）【1泊2日】
- ◆会 場 国立能登青少年交流の家
- ◆対 象 第1回：A中学1年生とその校区の小学6年生 88名  
第2回：B中学1年生とその校区の小学6年生 321名
- ◆主 催 国立能登青少年交流の家
- ◆共 催 羽咋市教育委員会
- ◆後 援 新潟・富山・石川・福井・滋賀各県教育委員会

### 1 趣旨

小中交流宿泊体験におけるグループワーク等の体験活動や生活を通して、児童・生徒のコミュニケーション能力を育成し、中一ギャップの解消に貢献する。そのため、校区ごと募集し、教育委員会や現場の小中学校教員との連携を深め、青少年教育施設としての新たな面を探る。また、指導スタッフとして学生が活躍する場を設け、青少年教育施設の役割を果たす。

### 2 ねらい

- (1) 児童・生徒が自分の意見をもってその意見を言う、相手の意見を聞く機会を多く体験させる。
- (2) 教育委員会や学校と打ち合わせの場をなるべく多く設け、円滑な運営につなげる。
- (3) 指導スタッフに対し養成研修の場を設け、事業の質を高めるとともに、学生にとっても学びの場となるように条件を整える。

### 3 日程

#### 1 日目

- 14:00～14:20 入所式（講堂）  
14:30～15:15 研修1：アイスブレイク  
15:30～16:45 研修2：エクササイズ  
A「トシくんのおつかい」  
B「交通渋滞」



「交通渋滞」

解決めざして知恵を出し合う

- 17:00～17:15 イブニングタイム
- 17:15～19:15 夕食・入浴
- 19:30～20:30 研修3：エクササイズ  
「新聞紙タワー」

**2 日目**

- 7:00～ 7:15 フレッシュタイム（講堂）
- 7:20～ 8:30 朝食・清掃・移動
- 9:00～10:30 研修4：エクササイズ  
A「交通渋滞」  
B「しりとりに侍」
- 10:50～11:40 研修5：ミニ運動会
- 11:50～13:10 昼食・アンケート記入
- 13:20～13:40 退所式（講堂）



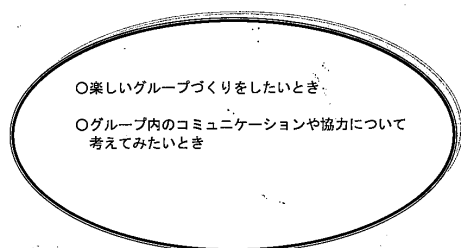
「ミニ運動会」  
綱引きの前に円陣を組む

○ エクササイズについて

研修に取り入れたエクササイズは、ラボラトリー方式の教材を取り入れた。児童生徒のコミュニケーション能力の育成のため、「積極的に話す」「相手の話を聞く」「考えを持ち、相手に伝える」というねらいで設定した。各教材の概要は以下の通りである。（すべて南山大学「教え学び支え合う教育現場間の連携づくり最終報告書」より）

■情報紙を用いた問題解決実習

10. トシくんのおつかい



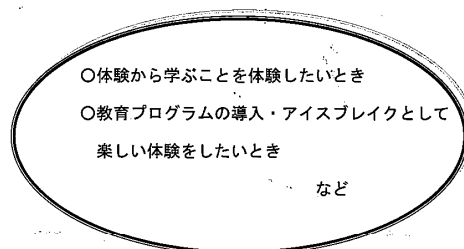
- 楽しいグループづくりをしたいとき
- グループ内のコミュニケーションや協力について考えてみたいとき

**実習の概要**  
ある日、トシくんがお母さんから頼まれたおつかいに行きます。ちょうど学校に忘れ物をしたことを思い出して、家から学校まで行き、その後おつかいの用事をします。家から学校までの道にいろいろなお店さんがいます。ほらほらの情報紙をグループのメンバーが出し合いながら、情報紙に書かれている課題を解決する実習です。その課題解決の過程で、自分や他者、グループの動きなどに気づき、学びを深めていくための実習です。

国立日高青少年自然の家企画指導専門職によって紹介されました。

■体を動かす実習

22. 交通渋滞



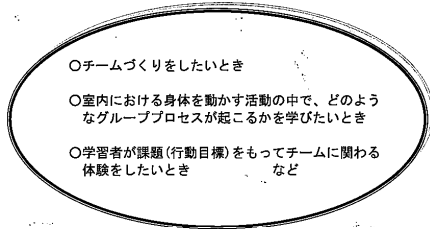
- 体験から学ぶことを体験したいとき
- 教育プログラムの導入・アイスブレイクとして楽しい体験をしたいとき
- など

**実習の概要**  
4～6人の2つグループメンバーが一本のラインのマークの上立ちます。ちょうど、2つのグループのメンバーが向かい合っている状態からスタートして、2つのグループのメンバーがあるルールのもとで、入れ替わることが課題です。ライン上で、前の人たちが話し合ったり、後ろの人と話し合ったり、後ろの人は話し合いに加われなかったりと、いろいろなコミュニケーション、かかわりを体験することができる実習です。前と後ろとで参加度の違いが生まれたりしますので、組織実習の小さな体験にもなるでしょう。

国立赤城青少年交流の家企画指導専門職によって紹介されました。

■体を動かす実習

## 28. 新聞紙タワー



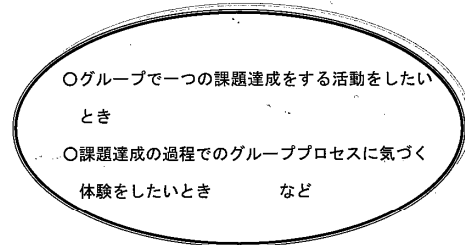
### 実習の概要

この実習は、タイトルにあるように新聞紙を使って、グループ毎に話し合っ、できる限り高いタワーを作ることをめざす活動です。タワーは、自立していることが条件で、グループメンバーといる意見を出し合ったり、工夫をし合いながら、また少し他のチームとの競争意識ももちながらグループ活動に取り組みます。体験学習を何度か体験していく中で、自分の課題をもって取り組むことで、自分やグループの成長に向けて意図的に取り組むこともできます。

国立徳州高造青少年自然の家の企画指導専門職によって紹介されました。

■体を動かす実習

## 25. ラボラトリーのしりとり侍



### 実習の概要

48枚のひらがなカードを使って、グループで手持ちのカードができる限り少なくなるようにしりとりを完成させる実習です。メンバー相互にいろいろなアイデアを出し合ったり、途中にさまざまな意思決定を体験したりすることができるグループ活動です。

国立淡路青少年交流の家の企画指導専門職によって紹介されました。

## 4 成果と課題

### (1) 参加者の満足度結果から

- ・ 事業後の参加者対象のアンケートにおいて、全体を通しての満足度として「満足」・「やや満足」と回答した参加者は、第1回目が100%、第2回目が98.7%であった。自由記述では、小学生からは「中学生や他の小学校の人とたくさん話ができた」、「早く中学生になりたい」等、中学生からは「小学生も中学生もはじめは緊張していたけど、仲よくなれた」「小学生と接して、中学生としてしっかりしようと思った」などの回答が得られた。
- ・ 活動別の質問では、どの活動も96%以上の満足度を得ており、活動に満足していた児童生徒が多いことがわかる。
- ・ 小学生は中学生や他の小学校の児童と、中学生は小学生と仲よくなれたかという質問では、小中学生とも95.3%が「仲よくなれた」と感じていた。

### (2) 児童生徒の感想

[小学生]

- ・ 班の中学生や余喜小の人としゃべれて楽しかったです。来年またいっしょになれるのが楽しみです。
- ・ はじめは、中学生がこわいと思っていたけど協力していくうちにやさしくなってきました。
- ・ 中学生は、ちゃんとぼくたちをまとめて中学生らしかったです。ぼくもそういう中学生になりたいです。

- ・ 中学生に少し怖い人もいたけど、これも中学生なんだなーと思いました。
- ・ 余喜小学校や邑知中学校の人たちと協力して課題をやりとげるのが楽しかった。
- ・ 引っ張っていく大切さなどが学べて良かった。
- ・ ぼくはいままで中学生や余喜の人とは、男子とかしか仲良くなかったけど、今回の宿泊体験学習で知らない人とも女子とも協力できて仲良くできた。

〔中学生〕

- ・ 最初は小学生に対して上手く接しられるか不安だったけど、活動を通して仲良くなれて嬉しかったです。また、小中学生両方とも協力して、いい交流になったと思います。
- ・ 小学生との交流も深まったし、協力できたので良かったです。小学生は積極的だったので嬉しかったです。
- ・ 小学生と仲良くなれてよかった。中学生としての自覚が深まり、これから中学生生活を頑張りたいと思いました。
- ・ 少し不安な部分もあったけど、一人一人の個性があふれる、とても楽しくて笑顔があふれる思い出になって、とてもうれしかったです。
- ・ 一人ではできないこともみんなで協力してやれば、どんなことでもできるという自信につながりました。2日間の学習で、私や全員のいい思い出になったと強く思いました。
- ・ この学習を通して、みんなで協力することの大切さを学び、みんなで研修を楽しめたと思います。そして、小学生のみんなとも友達となり、楽しくできました。これからは、勉強もやるけど、協力や楽しみを忘れずに学校生活を送りたいと思います。

### (3) 成果と課題

- ・ 小学生の感想に、「中学生に少し怖い人もいたけど、これも中学生なんだなーと思いました」というものがあった。中学生に対してのマイナスイメージではあるが、中学に入る前にわかることができよかったという感想である。このような点でも、本事業の成果を感じ取ることができる。
- ・ 第1回目・第2回目の両方で参加者から高い満足度が得られたことは本事業の成果と捉えられる。
- ・ 昨年度、スケジュールについての満足度が低めだったため、今年度は学校との打合せでスケジュールに余裕を持たせるようにしたが、入浴時間がどうしても短くなってしまい、日程面での満足度は72%と低めであった。次年度は、さらに運営面での工夫が必要である。
- ・ 主に学生ボランティアがコーディネーターとして各グループの指導に当たったが、学生によって目的意識や指導の力量に差があり、グループによってコミュニケーションの活発さに差が生まれてしまった。次年度以降は、学校の教員を指導に当て、指導力の安定を図る必要がある。
- ・ 活動内容は、ラボラトリー方式に限らず、野外活動やレクリエーション的な活動も含め、検討していく必要がある。